

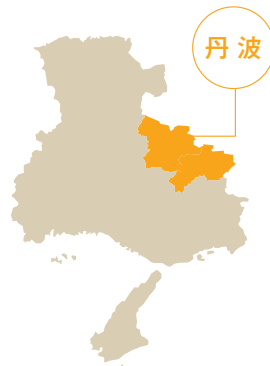
丹波の魅力

今に息づくデカンショ節にうたわれた世界

丹波は、兵庫県の中央東部に位置する丹波篠山市と丹波市からなり、北東では京都府と接しています。豊かな自然に加え、昔ながらの農村風景や城下町の町並みが残されていることが丹波の特徴です。

篠山城の城下町として栄えた伝統文化や時代ごとの風土や生活を唄に読み込んだデカンショ節の世界が現代に息づいていることが評価され「丹波篠山 デカンショ節 民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」は文化庁の日本遺産に認定されました。

丹波篠山で江戸時代から歌い継がれてきた「デカンショ節」には、時代ごとの風土や人情、名所、名産品などが歌詞に盛り込まれてきました。そして今や400番にも上る「デカンショ節」の歌詞の世界が今なお丹波篠山の町並みや史跡、文化の中に息づいています。



デカンショ祭り。日本遺産にも選ばれたデカンショ節に合わせたの総踊りは壮観です

例えば、デカンショ節に「並木千本 咲いたよ咲いた 濠に古城の 影ゆれて」をはじめ歌詞の中で多く歌われる篠山城跡は、1609（慶長14）年に徳川家康が旧山陰街道沿いに築いた城で、2000（平成12）年に大書院が復元され、一般に公

開されています。

「嫁がほしゅうて 轆轤ろくろを蹴れば 土はくるくる 壺になる」は、日本六古窯の一つとして知られる丹波焼のことで、その発祥は平安時代末期までさかのぼり、登り窯と蹴りロクロ（左回転ロクロ）とともに、伝統技術を今に受け継いでいます。現在も約60軒の窯元が丹波焼を生産しています。2017年には、デカンショ節に続き、六古窯の他の産地とともに「きつと恋する六古窯 日本生まれ日本育ちのやきもの産地」が日本遺産に認定されました。



登り窯の高温焼成により生まれる独特の風合いは、丹波焼の芸術性を高めています

丹波ブランド、新規就農者も呼び込む

山々が連なる間に盆地状の地形がつくられ、年間を通じて昼夜間の寒暖差が激しく、秋から冬にかけて発生する「丹波霧」は豊かな緑を幻想的に覆います。丹波地域には、このような気候風土と豊かな土壌に育まれた特産物が数多くあり、丹波ブランドとして全国に知れ渡っています。その代表格が「丹波黒大豆」。外観は球形で大粒、口当たりは滑らかで、もちもちと粘り気があり、甘みも強いのが特徴です。煮炊きしても皮が破れにくく、正月用の祝い豆として重宝されています。



盆地状の地形が生み出す丹波霧は、幻想的な風景を演出するだけではなく、豊かな農作物も育てています

このほかにも、江戸時代から特産として栽培され、肉質が緻密で非常に粘り気強い「丹波山の芋」、強い香りとしっかりした食感を持つ「丹波のマツタケ」、大粒で煮崩れせず、色合いと風味に優れ高級和菓子などに使われている「丹波大納言小豆」、粒が非常に大きく上品な甘みを持つ「丹波栗」と枚挙にいとまがありません。



「丹波黒大豆」「丹波栗」「大納言小豆」「丹波山の芋」などは、丹波ブランドとして全国的に知られています

兵庫県も、丹波の特産物をより多くの人に知ってもらい、味わってもらうため、農業の担い手育成や、消費の拡大、食品表示指導など「丹波ブランド」の振興に取り組んでいます。その結果、新規就農者も増えています。

近年、大きな話題を呼んだのは丹波竜化石です。2006年8月、丹波市山南町を流れる篠山川河床の篠山層群で初めて発見され、兵庫県立人と自然の博物館は、丹波竜を新属新種と認め、学名を「タンパティタニス・アミキティアエ」と名付けました。

国内で化石が発見された恐竜では5例目で、推定体長は12メートルと国内最大級です。その後の調査で頭骨やろっ骨、歯、世界でも珍しい脳畔など約2万点の化石が見つかっています。丹波市の丹波竜化石工房「ちーたんの館」では、丹波竜の実物大全身骨格が展示され、また、VR（バーチャル・リアリティ）により、丹波竜が生きた時代を体感することができます。丹波の歴史の壮さを感じさせるとともに、新たな観光資源として人気を集めています。



2006年に白亜紀の恐竜・ティタノサウルス形類の化石が発掘され、丹波竜として地域のシンボルになりました

たくさんの移住者呼び込む多彩な魅力

丹波地域は、神戸・阪神間から車、鉄道を使って約1時間半の圏域にあることが都会に住む人をひきつけています。週末に農業を楽しみにやってくるだけでなく、近年は移住者も増えています。保育士として働いた経験を生かして「里山保育」の実践をする人、自然に囲まれた豊かな環境でテレワークを実践する人、古民家を借りてカフェを開業した人…。また、大阪の人気ジーンズメーカーは、丹波篠山市内で栽培した高品質の綿花を使った限定ジーンズを製造する取り組みで話題を呼びました。



鉄道や高速道路の利用で都市圏との往来がしやすいことも丹波の魅力のひとつです

丹波の魅力を地元の若い人にも感じてもらおうと様々な取り組みが行われています。文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」においてグローバル型の指定校となった柏原高校では、地域が抱える課題の解決を通して国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成することを目標に、里山、地域医療、防災、Uターン・Iターンなどの研究を通して、地域愛を育てています。



古民家を利用したカフェの経営など、丹波らしさに価値を求めて移住する人も増えつつあります